

【公募情報】平成 28 年度 日本医療研究開発機構 (AMED)「障害者対策総合研究開発事業(平成 28 年度)」 公募について

平成 27 年 11 月 30 日

信濃町地区研究者各位

信濃町キャンパス 学術研究支援課

【公募情報】平成 28 年度 日本医療研究開発機構(AMED)「障害者対策総合研究開発事業(平成 28 年度)」公募について

11 月 25 日付で平成 28 年度「障害者対策総合研究開発事業(平成 28 年度)」について新規課題が公募されました。

ご応募を検討されている研究者におかれましては下記照会先までご一報くださいますようお願いいたします。

(1)応募意思の申し出締切:【平成 27 年 12 月 4 日(金)】

(2)応募書類一式提出締切:【平成 27 年 12 月 7 日(月)】

【注意点】

- ・ 本学で応募が可能な方は、本学と雇用関係のある”常勤”の研究者となります。
- ・ 機関を対象としての公募であり、申請は代表機関の長が行うこととなります。
- ・ 提案書の提出方法:【e-rad 及び郵送】

—公募概要—

障害者対策総合研究開発事業(平成 28 年度)

<http://www.amed.go.jp/koubo/010420151125.html>[外部ページ]

【提出期間】平成 27 年 11 月 25 日～平成 27 年 12 月 18 日(金)(正午必着)

【公募テーマ(4 分野 19 課題)】

(ア)身体・知的等障害分野

- ① 障害者自立支援機器の実用化に関する研究
- ② リハビリテーション現場で使用されている既存の福祉機器の効果検証に関する研究
- ③ 重度障害者の活動性を維持向上するコンディショニング方法の開発に関する研究

(イ)感覚器障害分野

- ① 耳鳴の診療ガイドラインの開発に関する研究
- ② 吃音の治療法等の開発に関する研究
- ③ 小児難聴の原因に基づく診断と治療、及び療育システム構築に関する研究
- ④ ろうをベースとした盲ろう者、及び高齢で盲ろうとなった人のための触手話ロボット開発に関する研究

(ウ)精神障害分野

- ① ギャンブル等依存症の実態把握と回復プログラムの開発に関する研究
- ② アルコール依存症への地域連携による早期介入と回復プログラムの開発に関する研究
- ③ 自殺の実態解明と効果的な介入プログラムの開発に関する学際的研究
- ④ 精神疾患の標準的治療ガイドラインの策定に関する研究
- ⑤ 世界保健機関の国際疾病分類改訂に関する研究
- ⑥ 脳脊髄液サンプルを用いたうつ病の客観的評価指標の実用化に関する研究
- ⑦ 新たな認知行動療法プログラムの開発と普及に関する研究
- ⑧ 治療抵抗性統合失調症に対する治療プロトコールの開発に関する研究
- ⑨ 精神障害リハビリテーションにおける多職種連携ガイドラインの開発に関する研究

(エ) 神経・筋疾患分野

- ① 慢性疲労症候群に対する画像検査等の客観的診断法の開発に関する研究
- ② 脳脊髄液減少症に対する病態解明、客観的診断・治療法の開発に関する研究
- ③ 神経・筋疾患の病態解明、革新的診断・治療法の開発に関する研究

(ア) 身体・知的等障害分野

1. 障害者自立支援機器の実用化に関する研究

研究費の規模： 1 課題あたり、2000 万円/年(間接経費を含む)

研究実施予定期間：最長 3 年度 (平成 28 年度～平成 30 年度)

採択課題予定数： 0～2 課題程度

目標：

BMI・音声認識等を用いた障害者自立支援機器の実用化を目指す。

2. リハビリテーション現場で使用されている既存の福祉機器の効果検証に関する研究

研究費の規模： 1 課題あたり、1000 万円/年(間接経費を含む)

研究実施予定期間： 最長 3 年度 (平成 28 年度～平成 30 年度)

採択課題予定数： 0～2 課題程度

目標：

リハビリテーションの場で使用されている福祉機器が、利用者に対して実際にどの程度効果があるのかを検証し、福祉機器の有効性についてのデータベースを構築する。

3. 重度障害者の活動性を維持向上するコンディショニング方法の開発に関する研究

研究費の規模： 1 課題あたり、700 万円/年(間接経費を含む)

研究実施予定期間： 最長 3 年度 (平成 28 年度～平成 30 年度)

採択課題予定数：0～2 課題程度

目標：

重度障害者の活動性を維持向上するためのコンディショニングプログラム確立を通じ、重度障害者の日常生活機能の維持や健康増進を図り、個々人の自己実現及び社会参加を進める。

(イ) 感覚器障害分野

1. 耳鳴の診療ガイドラインの開発に関する研究

研究費の規模： 1 課題あたり、300 万円/年(間接経費を含む)

研究実施予定期間： 最長 3 年度(平成 28 年度～平成 30 年度)

採択課題予定数： 1 課題

目標:

日本におけるエビデンスに基づいた耳鳴の診療ガイドラインを開発し、耳鳴診療の質の向上に寄与することを目指す。

2. 吃音の治療法等の開発に関する研究

研究費の規模: 1 課題あたり、1000 万円/年(間接経費を含む)

研究実施予定期間: 最長 3 年度(平成 28 年度～平成 30 年度)

採択課題予定数: 0～2 課題程度

目標:

吃音患者向けの最新の治療法等を開発する。

3. 小児難聴の原因に基づく診断と治療、及び療育システム構築に関する研究

研究費の規模: 1 課題あたり、600 万円/年(間接経費を含む)

研究実施予定期間: 最長 3 年度(平成 28 年度～平成 30 年度)

採択課題予定数 0～2 課題程度

目標:

小児難聴の原因に基づく最新の診断・治療等に係る知見を評価し、難聴診療の標準化を図る。また、療育においても、原因に基づいた最も適した言語指導方法を解明する。。

4. ろうをベースとした盲ろう者、及び高齢で盲ろうとなった人のための触手話ロボット開発に関する研究

研究費の規模: 1 課題あたり、1000 万円/年(間接経費含む)

研究実施予定期間: 最長 3 年度(平成 28 年度～平成 30 年度)

採択課題予定数: 0～2 課題程度

目標

盲ろう者のための触手話ロボットを開発し、盲ろう者の通訳技術等の進歩を図る。

(ウ)精神障害分野

1. ギャンブル等依存症の実態把握と回復プログラムの開発に関する研究

研究費の規模: 1 課題あたり、2500 万円/年(間接経費含む)

研究実施予定期間: 最長 3 年度(平成 28 年度～平成 30 年度)

採択課題予定数: 0～2 課題程度

目標:

ギャンブル等依存症の実態把握に努めるとともに課題を整理する。ギャンブル等依存症に対し、効果的な地域連携モデルを明らかにするとともに、医療の役割を明確にし、医療機関における回復プログラムの開発・効果検証を行い、ギャンブル等依存症に対する標準的な治療法の確立を目指す。

2. アルコール依存症への地域連携による早期介入と回復プログラムの開発に関する研究

研究費の規模: 1 課題当たり、2500 万円/年(間接経費を含む)

研究実施予定期間: 最長 3 年度(平成 28 年度～平成 30 年度)

採択課題予定数: 0～2 課題程度

目標:

アルコール依存症の実態把握に努めるとともに課題を整理する。アルコール依存症に対し、効果的な地域連携モデルを明らかにするとともに、医療の役割を明確にし、医療機関における早期介入プログラム及び回復プログラムの開発・効果検証を行い、アルコール依存症に対する標準的な治療法の確立を目指す。

3. 自殺の実態解明と効果的な介入プログラムの開発に関する学際的研究

研究費の規模: 1 課題当たり、2500 万円/年(間接経費を含む)

研究実施予定期間: 最長 3 年度(平成 28 年度～平成 30 年度)

採択課題予定数: 0～2 課題程度

目標:

自殺の実態把握に努めるとともに課題を整理する。自殺予防や自死遺族支援に関する効果的な地域連携モデルを明らかにするとともに、自殺に関するリスクアセスメントやリスクマネジメントの手法の開発・効果検証を行い、自殺対策に関する標準的な介入プログラムの確立を目指す。

4. 精神疾患の標準的治療ガイドラインの策定に関する研究

研究費の規模: 1 課題当たり、3000 万円/年(間接経費を含む)

研究実施予定期間: 最長 3 年度(平成 28 年度～平成 30 年度)

採択課題予定数: 0～2 課題程度

目標:

精神科医療の診療方法の標準化及び治療方法の開発に向けて、諸外国における先進的な取組を踏まえながら、①主要な精神疾患についての包括的な治療ガイドラインの策定と普及、②治療目標である QOL や社会機能等に着目した評価ツールの開発を通じ、精神保健医療の向上を目指す。

5. 世界保健機関の国際疾病分類改訂に関する研究

研究費の規模：1 課題当たり、1000 万円/年(間接経費を含む)

研究実施予定期間：最長 2 年度(平成 28 年度～平成 29 年度)

採択課題予定数：1 課題

目標：

国内における世界保健機関の国際疾病分類改訂版の妥当性・臨床的有用性に関するフィールドスタディを行い、ICD-11 診断ガイドラインの最終案作成のための研究を行う。

6. 脳脊髄液サンプルを用いたうつ病の客観的評価指標の実用化に関する研究

研究費の規模：1 課題当たり、2000 万円/年(間接経費を含む)

研究実施予定期間：最長 3 年度(平成 28 年度～平成 30 年度)

採択課題予定数：1～2 課題程度

目標：

病態を直接反映する脳脊髄液を分析し、うつ病等の精神疾患の脳内分子動態を解明する。うつ病等の精神疾患に特有の分子を同定し、それをターゲットとした根本的治療薬開発につなげる。

7. 新たな認知行動療法プログラムの開発と普及に関する研究

研究費の規模：1 課題当たり、1000 万円/年(間接経費を含む)

研究実施予定期間：最長 3 年度(平成 28 年度～平成 30 年度)

採択課題予定数：0～2 課題程度

目標：

強迫性障害・不安障害、睡眠障害、PTSD 等に対する効果的な認知行動療法プログラムの開発、及びチーム医療による効果検証を行い、質の高い認知行動療法を推進する。また、メンタルヘルスの観点から認知行動療法の考え方を取り入れた予防的プログラムを開発し、様々な場面での効果検証を通じ、国民の精神的健康の増進に寄与する。

8. 治療抵抗性統合失調症に対する治療プロトコルの開発に関する研究

研究費の規模：1 課題当たり、1500 万円/年(間接経費を含む)

研究実施予定期間：最長 3 年度(平成 28 年度～平成 30 年度)

採択課題予定数：1 課題

目標:

治療抵抗性統合失調症に対し、治療薬選択に資する客観的診断法、及び実用的治療プロトコルを開発する。それにより、治療抵抗性統合失調症に対する有効かつ副作用の少ない新たな治療薬の開発を可能とする

9. 精神障害リハビリテーションにおける多職種連携ガイドラインの開発に関する研究
研究費の規模: 1 課題当たり、1500 万円/年(間接経費を含む)

研究実施予定期間: 最長 3 年度(平成 28 年度～平成 30 年度)

採択課題予定数: 0～2 課題程度

目標:

精神障害者の社会復帰に向けての多職種連携によるリハビリテーションの具体的手法について明らかにする。その際、実践の場で活用することのできるリハビリテーションマネジメントツールを開発するとともに、その効果についても検証する。

(エ) 神経・筋疾患分野

1. 慢性疲労症候群に対する画像検査等の客観的診断法の開発に関する研究

研究費の規模: 1 課題当たり、1500 万円/年(間接経費を含む)

研究実施予定期間: 最長 3 年度(平成 28 年度～平成 30 年度)

採択課題予定数: 0～2 課題程度

目標:

慢性疲労症候群に対し、臨床現場で活用できる画像診断法等の開発、客観的な診断基準の策定を通じて、慢性疲労症候群に係る疫学的実態及び病態の解明、ひいては画期的な治療法開発への道筋を開く。

2. 脳脊髄液減少症に対する病態解明、客観的診断・治療法開発に関する研究

研究費の規模: 1 課題当たり、1500 万円/年(間接経費を含む)

研究実施予定期間: 最長 3 年度(平成 28 年度～平成 30 年度)

採択課題予定数: 0～2 課題程度

目標:

小児の脳脊髄液漏出症、及び成人の脳脊髄液漏出症の診断基準を満たさない脳脊髄液減少症を対象とした、客観的診断法の開発及び診断基準の策定。それを通じて、これらの脳脊髄液減少症の病態解明、客観的診断・画期的治療法の開発を目指す。

3. 神経・筋疾患の病態解明、革新的診断・治療法開発に関する研究

研究費の規模: 1 課題当たり、1500 万円/年(間接経費を含む)

研究実施予定期間: 最長 3 年度(平成 28 年度～平成 30 年度)

採択課題予定数：0～2 課題程度

目標

原因や病態が十分に解明されていない神経・筋疾患について、革新的技術等を用いてこれらの病態を解明し、客観的な診断基準の策定、治療法開発につなげる。(筋ジストロフィー等の指定難病、慢性疲労症候群、脳脊髄液減少症に関する研究を除く)

担当(照会先): 信濃町キャンパス 学術研究支援課 AMED 担当
メール: amed-shinano@adst.keio.ac.jp